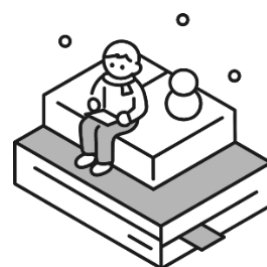




台湾有事の可能性は？

新年早々、物騒な話題で恐縮ですが、中国が台湾を軍事的に支配しようとする可能性をあなたはどの程度、想像していますか？ 昨年は香港の民主化運動が完全に押さえ込まれたこともあり、中国脅威論が広がり、台湾有事が現実味を帯びてきたという論調が増えてきました。また、NHK 特集では新疆ウイグル民族への弾圧の具体例が紹介されるなど、「人権を抑圧する中国」「覇権主義の中国」というイメージは強くなる一方です。さらに中国とロシアが手を結び、中露艦艇が津軽海峡を通過して日本をぐるりと一周した（10月22日）となれば、日本の防衛費が大幅に増えて初めて6兆円を突破（11月26日）したのもしかたがないと考える人が増えるのは当然です。しかしその結果、教育予算は減るかもしれません…

というわけで、国際情勢をどう見るか、また、政府の防衛費アップを座視するかどうかは、私達の勤務条件や教育環境に大きな影響を与えます。歴史を見れば、「日本は戦争に打って出なければ滅びる」といった国際認識から他国を侵略し破滅への道に進んでしまいました。現代でも「国防のために他国の拠点を先制攻撃する」といった国会議員が現れています。この風潮が強まれば軍拡競争が続き、一部の企業と商社は大儲けですが、教育予算は増やせず、そのしわ寄せは貧困家庭や子どもたち全体に及んでしまいます。以上のことが現実化するかどうかは私達国民の行動にかかっていると思います。



要求を出し続けるから現実に変化する！

私達の組合は全国各地の民主団体や各組合と連帯し「教育予算の増額こそ国際平和、国民の幸せへの道」という観点で行動しています。幸い現時点では文科省は私達の要求を尊重し、予算の増額に動いています。例えば、SC（スクールカウンセラー）とSSW（スクールソーシャルワーカー）予算を過去最高の77億円（12月24日）と増額させました。しかし、OECD（経済開発協力機構）2020版を見れば「初等教育から高等教育に対する公財政支出率は極めて低く、逆にクラス当たりの生徒数は日本が最も多くトップです。それだけ、教職員が酷使され、低賃金で働いているということになります。また、子どもの側に立てばきめ細かい教育を受けていない、ということになるでしょう。昨年、皆さんの多くに署名していただいた、教育予算増額・少人数学級を求める「ゆきとどいた教育署名」は12月10日現在で全国235万筆を超え、2月の提出に向けて更に世論を作るべく運動しています。また今年も定年年齢引き上げに伴う60歳以降の給与問題も前面に押し出し、3割減額でなく予算をきちんと確保して対応するよう要求していきます。

群馬高教組は今月初め、「県民春闘討論集会」に参加し「なぜ日本だけ賃金が下がるのか」を中心に学習しました。この30年、先進諸国や韓国が実質賃金を上げている一方で、日本の実質賃金が下がり続けている理由は、非正規労働者を増やし続けて身分を不安定化させ、組合に入らせない、また組合を作らせないようにして団結するのを防いで要求することを潰してきたからです。この辺の解説は各種ネット記事にもありますので見てください。組合が強く、労働法に保障されて経営者と交渉できていた時代には毎年、賃金は上昇し待遇改善が進んでいました。年配の方は若かりし頃のことを覚えていることと思います。私たちはこの意味で全職員の方に連帯をお願いしたいと思っています。

さて、来月2月11日には、今年度のベストセラー著者、斎藤幸平氏を招いて現代世界の捉え方や各問題への対処方法などを学びます。ぜひ皆様にも参加していただき、授業やクラス運営といった幅広い教育活動に活かしていただきたいと思います。そして、私達の労働条件の向上にも力を貸してください。

教職員の大きな安心！全教共済のお知らせは裏面をご覧ください

群馬高教組 HP を更新中です！

HPはこちらから <http://www.ghu.org/> →



TEL : 027-231-2784 / FAX : 027-231-2787 / Email : ghtu@educas.jp